

来る。

第七週

ビルディング、貨物自動車

やはり空箱利用がいゝ様に思ふ。

町を行く人、

厚目の畫用紙に人の繪を描き、それを採色、切り抜きて立つ様にする、みんな一人位つゝ作る。

唱歌遊戯

第五週

唱歌 一回

しゃぼん玉

しゃぼん玉を知らない子供は居ないか知ら。みんなでしゃぼん玉をこぼして見るこよい。それから歌ひませう。

遊戯 二回

第八週

電車停留場 電柱

圓柱はキビガラを用ひてもよし、又畫用紙にて圓筒をこしらへてもよし、共に立つ様に工夫して。

郵便局

特殊な設備の建物であるが故に非常に興味を持つ。適當な箱を持つて來た人に作らしてもよし、有志の兒にてもよし。

第六週

唱歌 一回

レコード音楽鑑賞

ほんの短い時間でよい。じつこ靜かに聽かせる。

遊戯 二回

この頃になると、元氣旺盛な男兒の中に、ふざけたり騒いだりして、折角の遊戯を搔廻す様な者が出て来る。遊戯の仲間に加はつた以上は、ちゃんこする様によく注意したい。その代り一方力一杯出して出来る様な興味ある遊戯(競争遊戯其の他)をして、思ひ切り元氣な力を發揮させる様にすればよい。時には男兒と女兒とに分けて、それらに適したものを與へて見る必要がある。

その日にする遊戯の種目は、子供の其の日の氣持や様子を見て、落付のない騒々しい時には、殊に靜かなものを選ぶ様にする。時間も其の時々の様子を見ながら、適當に加減することは云ふまでもない。

氣候もよし、五月晴れの一日、遊戯室にこぢ込めるよりもたまには太鼓やハーモニカ等を持出して外でしよう。のぞきっこ(記事参照)

第七週

唱歌 二回

スナアソビ(エホンシヤウカ)

遊戯 二回

スナアソビ(記事参照)

「ソレソレマリサントホリダ……」の所は、鞠になつた者が、二回でも三回でも早くくゞつてよい事にする。大變に面白い。鞠さんの順番の廻つて来るのを樂しみにしながら、何回でもこの遊戯は續けられる。

第八週

唱歌 三回

チューリップ兵隊(童謡唱歌名曲全集)

歌詞も長く、曲も少しむづかしいので、二三回に分けて歌はせる。

遊戯 三回

印度の兵隊さん(記事参照)

お話や繪本などでお馴染の印度の兵隊さん。頭には白布を巻いて、長煙管を持った悠長な兵隊さんを想像する。其の様子を面白く話しながら動作をする。いゝ氣持になつてやつてゐる。面白い題材の遊戯である。

のぞきっこ



のぞきっこ 戸倉ハル氏振付

準備 體形を作らず自由に、二人つつ組むで行ふ。

1 第一小節及第二小節の第一音

二人前後に並び、後の者は前の者の肩に軽く兩手をのせ、前者は手を腰にきつて用意をしておく、そして前者は後者の顔をふりむいてみるに同時に後者は前者の顔をのぞき込む様
にみる。この動作を右に一回行ふ。

2 第二小節第三、四音及第三小節第一音

前と同じのぞいてみる動作を左に一回行ふ。

3 第三小節第二、三音、第四小節及第五小節第一、二音

前と同じ動作を曲によく合はせて右に一回左に一回右に一回
きくりかへし即ち三回行ふこまなる。

のぞきっぴり

1.



2.



7.



4 第五小節第三、四音及第六小節第一音

前と同じ動作を即ちのぞきみるのを左に一回行ふ。

5 第六小節第二音より第七小節第一音まで

同じ動作を右に一回行ふ。

6 第七小節第二音より第九小節まで

同じ様に動作を左、右、左に行ふ。

7 第十小節より終りまで

二人左右に並び手を前にくみ合せて、スキップで自由な方向に行く。

以上も何回かくりかへして行ひ、一回毎に前後の位置を交換する。

スナアソビ

♩ = 126

ニギン ニアレ マツ ヨシ ツトマ フシリ ロキ カレン

サアオ サゲト スホ ナセリ テタダ ミミア ケニカ レヲラ

ツガマ ケニツ ヨウジョ カライ レギアオ ミンケツ スマカ ナセケ テアル

すなあそび

戸倉ハル氏振付
エホンシヤウカ

準備 二人つつ向ひ合つ

て一組を作り数組

づつ一しよになつ

て行ふ、又は圓周

を作つて行つても

よい。

ヤマラツケロカサラサラスナデ

二人向ひ合ひ踏み、兩手にて

前の砂を盛り上げ山を作る動

作を四回行ふ。

ミチヲツケヨカ

二人立つて向ひ合つたまゝ兩

手をつなぎ位置交換。

ギンスナデ

二人手はつないだまゝで頭

を、左、右、左、ミ三回ふる。

ヤマニハトンネル

二人手をミつたまゝで一方の手を高くあげトンネルを作り、その中を二人が頭から先に入れてくゞり、この時兩手ともそれぞれかたくミつたまゝはなさないでゐる、するミ二人が背中合せになつたこゝなる。

アケマセウ

今度は背中合せのまゝもう一方の手を高くあげその中を二人がくゞり元通りの向ひ合ひになる。

ミチニハガードヲカケマセウ

第一番のミチヲツケヨカギンスナデミ同じ動作を行ふ。

ソレソレマリサンオトホリダアトカラヤツシヨイオツカケ

二人向ひ合つて兩手を高くミりトンネルを作り、數組が互に近より、そのつゞいたトンネルの中を、まりになつた一組が、三十人の圓であつたら一つの圓に三組位豫め前にまりになる組を定めておく。何回も曲の終るまでの間をかゞむでかけぬけて自分の位置に戻る。これは圓周になつて行つた場合、このまりは、數組が一體ミなつて行ふ場合は、一端の組がまりミなり、回をくりかへす毎に次の組ミ交代する。この時まりは自分の位置にかへらず自分達の組の中の一
番先の端の位置につく。

印度の兵隊さん

The first system of musical notation consists of two staves. The upper staff is in treble clef with a 4/4 time signature, featuring a melody of eighth and quarter notes. The lower staff is in bass clef, providing a harmonic accompaniment with chords and single notes.

The second system continues the piece, showing the melodic line in the treble clef and the accompaniment in the bass clef. The melody includes some chromatic movement.

The third system of notation, maintaining the two-staff structure. The melody in the treble clef has a distinct rhythmic pattern.

The fourth system of notation, showing the continuation of the melody and accompaniment. The bass line features a steady eighth-note accompaniment.

The fifth system of notation, with the treble clef staff showing a more active melodic line and the bass clef providing a solid harmonic base.

The sixth system of notation, continuing the musical development. The melody in the treble clef shows some grace notes.

The seventh system of notation, featuring a melodic phrase in the treble clef and a corresponding accompaniment in the bass clef.

The eighth and final system of notation on this page, concluding the piece with a final melodic flourish in the treble clef and a resolving accompaniment in the bass clef.

1



2



3



4



印度の兵隊さん 戸倉ハル氏振付

準備 圓周を作り内方を向く

1 第一小節より第五小節まで

あぐらをかき、腕をくみ居ねむりをする。

2 第六小節より第九小節第三音まで

あぐらのまゝで、くむでるた手を上に高く勢よくあげる(掌は互に向ひ合はせて)手をおろ

してくみ、又上にあげるこの動作をくりかへし四回行ふ。

3 第九小節第四音より第十三小節まで

右手を右耳の後にあてゝ上體をやゝ右にたをし、靜かに物をきく様子をすること、右、左、

右、左、こ行ふ。

4 第十四小節より第十七小節まで

あぐらのまゝにて手を目の上にかざし、顔を右に向け右の遠方を見る、やはり右、左、右、

左こ行ふ。

5 第十四小節より第十七小節まで

あぐらのまゝで、兩手で長い煙管を持ち煙草をふかす様子をすること。

6 第十八小節

右手で一回右方の床を強くたつき、左でも同じこきをする。

7 第十九小節

元氣よく拍手三回。

8 第二十小節

6の動作と同じ。

9 第二十一小節

7の動作と同じ。

10 第二十二小節より第二十五小節まで

急いで立つて元氣よく圓周にそつてかける。

11 第二十六小節より第二十九小節まで

あぐらをかき6、7、8、9と同じ動作をくりかへす。

12 第三十小節より終りまで

10と同じ動作を行ひ、最後に手を上にあげ萬歳を元氣よく叫ぶ。